

第1回 新型コロナウイルス対策支援本部会議記録

日 時：令和2年4月21日(火)

午後1時28分～午後2時23分

場 所：第 4 委 員 会 室

【本 部 長】川神議長

【副本部長】佐々木副議長

【本 部 員】三浦議員、澁谷議員、岡本議員、柳楽議員、芦谷議員

【事 務 局】古森局長、下間次長

【議 題】

1. 市長への申入れについて

2. その他

【議事の経過】

[13 時 28 分 開議]

川神議長

非常事態宣言が出て大変厳しい中、本来なら接触を避け極力会議を減らす方針ではあるが、先般皆にお知らせしたとおり、我々正副議長も新型コロナウイルス対策本部からご案内頂き、参加することになった。そういったことを受け議会としても、先般の全員協議会の中で皆から様々のご意見を頂戴している。我々は対策本部を支援する「対策支援本部」という立場で、議会の中に独自に作らせて頂き皆にご案内した。

この組織は、あくまで議会が内部的に意見を吸い上げ、全体の会議に伝えること、市民の方々の意見を執行部に伝えること、それと同時に対策本部から下りてきたものに対し議会から何ができるのかを、迅速に、スピード感を持って対応するために、皆にお伝えして、すそ野を広げていく目的で設置している。

次回以降はご案内のように、オンライン会議などで極力接触を避けて、緊急時にも対応できるような形にしたいと思う。今回は第1回目ということで、委員の顔を見て確認していただける会議にさせていただいたのでご理解頂きたい。

非常事態宣言が全国に出されているし、更に厳しい状況である。医療崩壊、経済崩壊が今、起こりつつある、もう起こっている。全員協議会の中で様々のご意見をいただいた。国県にならわない浜田市独自のやり方についても協議していかねばならないし、市民からの悲痛な叫びを皆聞いているであろうと思う。

支援メンバーは今からこのメンバーで行うが、本来なら広く多くの人間を入れる話もあったが、今回は各会派代表者に出て頂き、よりスピーディな会ができる形にした。会派にお持ち帰り頂き、しっかり議論するところは議論して頂くよう、進めていきたい。

本日の大きな議題は、市長に対する申入れ事項に関して、全員協議会の後に正副議長団が至急集まって準備していたが、ここに同席いただいている各会派の代表からも意見を頂戴している。更には本日新たな提案をされた方もいらっしゃる。それらを一応集約してできる限り早い時期に市長に申入れして、一緒に浜田市の難局を乗り切ることに、我々議会も関与していきたい。

少し長い挨拶になったが、非常事態であると認識しながら、浜田市民の安全安心を守るため議会としてどう関わるのか、自覚を持ってこの会議に臨んで頂きたい。よろしく願います。

1. 市長への申入れについて

古森局長

議題1について。ワンペーパーの資料を事前に皆にお配りしている。これについて本日は最終形にして頂き、明日以降で市長日程の合うところで正副議長に申入書を市長に渡していただこうと思っている。

このペーパーについて、修正点、加筆点などのご意見があれば頂きたい。

川神議長

その前に、議会基本条例に基づいて作った支援本部設置要領が、すで

に皆に渡っていると思う。本来なら集まってこのような組織の立ち上げ準備をすれば良かったのだろうが、ある程度は議長団を中心に、やりたい方針を提案させていただいたことを、皆に改めてご理解頂きたい。その中で様々な意見を頂きたいのでよろしくお願いする。

申入れをするということについては、全員協議会でも話が出たし、効果があるならきちんとまとめ上げて議会からきちんと申入れをしたいと私も考えていたので、今回はこのような文章の提案となった。皆から、感想なり指摘なりを頂きたい。

芦谷議員

これで良いと思う。少し焦点がずれている部分もあるかもしれないが、早さが大事なのでこれを出して頂きたい。刻一刻と状況は変わる。そうすると第2弾、第3弾を打つ。そのためには議員の意見を集約しながら複数回の申入れを行えば良い。従ってこれについては是非早急に出して頂きたい。

川神議長

補足だが、具体的な施策についてのご意見を全員協議会の際にも、その後にもいただいている。

澁谷議員からは子育て世代への共通商品券配布などの意見があった。今回、有効なプランをどんどん出すことも1つの手だが、まず第一弾はもう少し総括した中を出していければと思ったので、この中には個別各論の具体性は欠けているかもしれない。私が特に思っていたのは3点目の、浜田市独自の取組の検討ということだが、ここに、中期財政計画に掲げられている主要事業の先送りが良いか分からないが、そういったものも浜田市独自の経済対策、支援対策に前倒しで制作として出していく必要もあるのだろう。そうすると中期財政計画の中に組んである今からの事業もあるが、今は将来の文化だとか、安心を考えても、今の生活、この難局を乗り切らないと先がないので。

いまやっている計画を否定しているわけではないが、中期財政計画の大幅な見直し、現在使うべき財源をきちんと理解し、組み直しも含め検討してほしい。この3点目で、いろいろな緊急対策事業でやっていくべきことを、この中に総括として網羅していきたい。従ってこの3について、個人的にも強く、市長にお考え頂きたい。

4番目は生活困窮者等々。国も今からやっていくが市としてどうなのか。国が動いたら即座に市が動ける体制になるのかどうかも含めて、こういった項目を入れさせていただいている。皆の意見をよろしくお願いする。

柳楽議員

議長が言われたように今回のこの中には、あまり具体的なものを出すのではないということだったので、それをお聞きした上で、会派で話した中で、いま独自の検討という内容があったが、飲食店や観光業が本当に大変で、緊急を要する事態になっている。市独自の経済的支援というのは他の自治体も始めているので、そういったところをしっかりと訴えていくのが良いと思う。

また、相談窓口の体制だが、お話を聞くと、国の支援策にどういったものがあるか自体がなかなか分かりづらいということがあるようなので、まだきちんと決まり切っていないようなものもあるので現時点でどこまでできるのか、それともきちんと出た時にそういったものを出すほうが良いのかという問題はあるが、一覧表のような形で出してあげると、それ

岡本議員

を見て自分が当てはまるものを見つけてから具体的な相談ができるのかと思うので、そういったところも必要かなと思う。

細かな文言などはこれで良いだろうと思っている。今日この時点で来て、議会に何ができるのかを私は意識して来た。私のもとにすでに3件の相談が来ている。そういうことを披歴して、個別案件をそこへ送りしていただけないかと思っている。

後からでも良いが今の時点でお話させてもらおうと、広島の人がこちらに来ると。温泉施設などがそうであるが、すでに県外の車が来ているので困るということで。今週いっぱい皆に周知してもらおうから3時間は開けるが、来週から休むとか。喫茶店でも、県外者が来てスマホで情報を探して来るのだそうで。県外者が来るから非常に不安なので、店は閉めると聞いている。そういうことも何等かの形で申し送る必要がある。それが経営に繋がるかもしれないが、そういう事態もあるということで、要は実態をまず執行部に知ってもらいたい、議会もそれを聞いた上でお伝えするのだから。それがまず1点。

もう1点。ジュンテンドーで買い物をしたら、店員もお客も8割くらいがマスクをしている。けれど私を含め年寄りにはマスクをする意識がない。グランドゴルフもマスクをせずにプレイするのはいかがなものか、私に何とか言ってくれという話があった。議員だから、町内会長だから、という理由でマスク着用を促すようなことは言えない。だからこのたびの市の申入れに、できるだけマスクをするよう働きかけてほしい。市長か体育協会か、誰が働きかけるかは別として、マスク着用を働きかけてもらいたいということ、申入れの中に入れてほしい。

柳楽議員からも話があったが、商売をしている人がもう大変である。それについても2件相談があった。50万くれればとりあえず何とかなるといふ人がいた。その50万は家賃補助で使いたいと。しかし家賃は企業によって差があるから、本当にそれで良いのかということもあるし、逆にそういう助成をしたら、それをもって辞めていく人もいる。平等性に欠ける。そういうこともしっかり検討していかないと、何でもかんでも出せば良いということについては、精査しないと平等性に欠けるといふ話が出ている。

私に相談があった事例をお話したが、そういうものをこの申入れの中に、具体例として入れて頂きたい、というのが私の希望である。

三浦議員

執行部に求めたいのは大きく2つ。1つ目はまず感染者を浜田市に出さないこと、その対策を全力で行って頂きたい。

その中でこの申入れにも書いてあるが、市役所が率先して、職員の方々の感染予防はもちろん、来られる方の感染予防、お互いの話なので、予防策を推進して頂くのは求めたいところなのだが、この項目で要望するとしたら、職員のマスク徹底とビニールシートの措置しか書かれていないので、全庁的に職員はマスク着用を徹底すること等、予防対策に努められたい。としてほしい。

今日の新聞でもあったが、大田市役所は庁舎に入るところに手洗い場を設置して、来られる方には手洗いをして頂き、その後に入ってもらふことをされているという記事を拝見した。こうした対策も有効なのかな

と。手洗い場を設置する云々は別としても、マスクやビニールシートだけでなくやって頂き、それをしながらとにかく移動と接触を自粛していただく他に対策がないと思うので。先ほど岡本議員もおっしゃっていたが、とにかく県外からの人手も多いとのことなので、そうした呼びかけを強く求めたい。

会派からもいろいろ話があり、これから田植えの時期が来る。特に広島など近隣から田植えシーズンの帰省者が出てくる。帰省する側もさせる側もお互いに、遠慮したほうが良いのかどうしたら良いのか。季節的なことも踏まえて問題が生じているという声を聞いている。同じような話で、県立大学はいま休校になっていて学生が皆地元へ帰省している。開校の案内が流れれば彼らはまた帰ってくる。ある自治体は2週間、待機させて、経過観察をした上で登校させる対策を取られている。そうしたことを踏まえると、開校に併せて戻ってきた学生がすぐに活動し始めると、そうしたケアもできないままに人が入り乱れることが想定されるので、それを踏まえて県立大学との情報交換も必要ではないかと思っている。

マスクの配布について、今は医療・介護関係者のみに配布されているが、保育園は開いている。そうすると保育園も福祉施設として、どうしても自分で面倒をみられない親御さんが子供を預けにくる。毎日開けているという意味ではマスク配布が、医療・介護現場と同様に必要なのではないか。保育現場だけでなく、そういったところが他にもあるのではないか、という意見が出ている。

それから、行政関係機関が閉所していることに伴って、例えば児童クラブの支援員、給食センターのパート職員といった方々への休業補償がどうなっているのか、市として考えるべき点ではないかということも気を付けなければいけない。

それから、国の施策として10万円給付の話が出ているが、定かな情報ではないものの、給付体制は各自治体の予算対応次第になると耳にしている。浜田市として給付をできるだけ急ぐなら、きちんとした予算執行を早めにするのが大事なポイントになるかと思う。浜田市は通年会期制をとっているので、こうしたところは迅速に対応できるのではないかと。このあたりも配慮が必要ではないかと思っている。

それから、市役所のテレワーク推進について。行政は情報をなかなか自宅へ持ち帰ることができないため、テレワークの推進が難しいと言われていたが、こういう事態なので、もちろん機密情報や個人情報の持ち出しはダメだと思うが、どういう仕事なら自宅で大丈夫とするのか。もちろん今、現在対応しなければいけないということもあるのだが、この先も含めて働き方、仕事の仕方としてテレワークの推進をぜひ、市に求めたいと思っている。

あと、感染者が出た場合の病床の確保やいろいろな対応については、今後出てくると思うので、とにかくこの申入れを早く出すことについては賛成である。

続いて澁谷議員。

この申入れのメインになるのは3、4番だと思う。それをまとめたらど

うかと思った。

特に大事なものは「浜田市独自」、「有効な経済的支援策」というキーワードかと思った。あまりにも影響を受けているかたが多く、どこまで網羅するのか。個人事業主、観光業、飲食業など影響を受けている。信用保証協会の融資などでは、スナックやバー等は融資がなされないと聞く。全体的な支援策を浜田市独自に考えないといけないのでは。弱い立場の一人親などに繋がっていくと思う。それは、3、4番をまとめて1本入れたいと思っている。

5番の窓口の1本化については、相談体制の充実ということで、別途相談窓口を設けるべきではないかと思う。

あと、県外から流入される方も非常に多い。特に魚釣り等。他県では結構パチンコ店が閉鎖になっていて、パチンコ目当てに入ってくる方もおられる。いろいろな理由で県外から来られるので、事業所を休業してもらったり、そういう指導をしてもらったり、県を使って要請してもらおうとか。そういうことも必要なのではないか。

あと、医療体制的には、まだ発生してないのだが、発熱外来の受付を外のテントでやるような態勢の準備や相談は、前もってしておくべきではないか。そういう文言を入れたほうが良いのではと思った。

あと1、2番は、かなり市でも、先日の全員協議会以後に取組まれているところもあるので、後ろに回してはどうかという印象である。浜田市独自の有効な経済的支援策をメインにしたらいかがかと思う。融資の体制も含め。

川神議長

皆からの貴重なご意見に感謝する。さまざまな方から、具体的な案件をきちんと市に伝えるべきだという意見があった。これから対策本部が継続的に行われるが、議員が市民から吸い上げてきた生の声を、議会の立場として対策本部内で披歴することは責任をもってやろうと思っている。

ただそれまでに、さまざまな方がどこまでそういう意見を言って頂けるのか、今からその辺は整理する。とにかく危機感を持って対策本部の中に、議会からの意見を伝えていきたいと思っている。

今回は早急に申入れをすることを、まずスピード感をもって。

古森局長
川神議長

会派を作っていない方の意見は副議長がまとめることになっている。

一人会派の方の意見は、各派交渉会と同様に副議長が吸い上げることになっているので、副議長から披歴していただく。

佐々木副議長

一人会派の二名から、文書でいただいた意見は皆のタブレットに配信してある。先ほど出た意見と似たり寄ったりの内容だと思う。

まず西川議員からは2点の申入れ事項がある。1つは個人経営の飲食店への家賃等の支援。具体的に家賃と、ここには出ている。感染拡大防止対策で会合や宴会の自粛が続いて、市内の飲食店や宿泊施設では売り上げの減少が著しく、特に個人経営者においては毎月の家賃等が負担となり事業継続が困難となっていると。申入れの内容としては、そういった飲食店や宿泊施設の事業者に対し、当面の家賃や借入金の返済を補助することによって、市独自の支援をしてほしいという内容である。

もう1点が、先ほど市外からの流入ということで釣り客への心配の声か

あったが、全く同じ内容で、県外からの釣り客の来訪自粛の呼び掛け。週末には広島県から多く釣り客が来訪し、渡船を利用している。大型連休にはこれが更に加速することが予想されると。申入れの内容としては、県外からの釣り客の来訪自粛を、プレスリリース、これはおそらく広報してほしいということか。

三浦議員
佐々木副議長

記者発表。

記者発表しろ、そう書いてある。要するに広く知らせてほしいということらしい。渡船業者にも県外から釣り客の予約を受けないよう要請をする、ということである。

西村議員からは、これも先ほど出た内容と同じものと思うが、1つは今回提案している3番目にある内容で、市民の暮らしと健康、中小企業者の経営を守るために、国の施策の不十分な点を補足して市として積極的に実効性のある支援策を講じてほしいということ。

具体的には、事業者に対する給付金の支給や、固定費、家賃等の支援をしてほしい。専用の相談窓口を設置してほしい。関係各所、市の社協、ハローワーク、商工会等々から事業者の相談内容等を十分把握して、分析して対応してほしい。もう1点は、これも先ほどあった、医療介護福祉施設の拡充、その予算措置を講じること。今後の感染拡大に備え、装備・備品を含めた病床および医療スタッフを確保すること、となっている。

川神議長

これですべての意見を一応皆に披歴した形になる。

個人的に、議員から出た意見で、こういうことはどうかという内容をこの中に入れる、入れないは別にして、このようなものが来ている。

新年度予算には予想し得なかったことであり、予算対応をどうするのか。2点目に浜田市内の経済状況の確認はどうするのか。3点目に国が中止した経済支援はどうするのか。4点目に大学生への支援はどうするのか。5点目に浜田の具体的支援が市民に見えないので、どうアピールするのか。6点目に市内で感染発生を想定した備蓄はどうなのか。7点目に発生時の役所機能確保の手順はどうなっているのか。

こういったこともまた、対策本部なりで確認してほしいということである。一応これも皆に披歴しておく。先ほどから特に、浜田市独自の経済対策、国県がやる施策を補填する、もしくは独自の経済対策をどうするのか。それと、マスク等の完全装着ではないが、どうやってこの浜田市から感染者を出させないか。

感染者を出さないためにどうするか。それから本当に追い詰められた地元経済、生活困窮者、子育て世代等々、これをしのぐために、どういう戦略を打てるのか。この2本が大きな柱になるだろう。

いずれにせよ、国県が出してくる戦略についての、まず最初の方法だが、先日も市長のお話で国県に追随せざるを得ないとあった。それは分かるが浜田市の中でどうやったらそれができるのかを考えて頂きたいし、議会も協力しながら強くやっていきたい。皆からの細かな各論はあろうが、発生者を出さない、感染予防、現在の経済を何とか踏ん張るための市役所からの支援、こういったところをこの文書で強く訴えかけていきたい。

いくつかの事例は可能な限り入れてみたいとは思いますが、あまり広げると、これはどうか、あれはどうかという話になるので、まず考え方。浜田市独自のことをスピード感を持ってやる。順番はどうあれその辺りを強く訴えかけていきたい。

芦谷議員も言われたが、第2弾、第3弾を出して、また議員からの意見を個別に出す、もしくは対策本部で伝えるということもできる。これが最後ではないので、まず執行部に対し、このような基本的な考え方を強く持ってほしいということを、議会から申入れしたいと思っている。いかがだろうか。

岡本議員

言われたとおりで結構である。ただ、執行部がこれをももらった時に、こういう資料だということは彼らも十分認識しているのだが、議会からこれを申入れることについて非常に負担感を持つだろう。

例えば予算措置をどうするのか、予算措置をスピーディにやるべきだという話の中で、議会側が足枷になる。議会に通さねばならないから。議会側として、スピード感あふれる状態を支援できるものを、これに併せて執行部に出してあげなければいけないと思う。

例えば専決については正副議長がその会に行っているので、その場で正副議長が了承すればすぐ処理できるというような決意が、この中に見えないと。執行部は議会对応のために物事を考えるようではスピード感あふれるものにはならないと思うので、考えて頂きたい。

川神議長

先ほど三浦議員が言われたが、例えば国からの支援が具体的に示された時に、すべての自治体が一斉にスタートするわけではない。その自治体の準備によって大きく差が出てくるだろうということを想定して、国が何か動いた時にはこういう形で、市民に急いで抛出できるような対策を打っていかねばならない。

予算に関わることはまさしく議会の範疇にあるので、そういったことが出た時に、通年会期なので臨時会議を即座に開く方法もある。我々議長団の判断のもとに専決という方法もある。我々もそういうことは考えている。議会も協力するといった、先ほど岡本議員が言われた内容を具体的にこの文書に盛り込むかどうかも含め、議会側も全面協力しながらタッグを組んでやる姿勢は、この中に出したいと思う。

具体的なことは今日皆にお諮りしたので、いまからまた相談させて頂きたい。

今回は急いでこちらをまずは市長にお渡ししたい気持ちがあるので、十分な内容になるかは分からないが、今言ったような方針で、この文書を最終的に作り上げて提出したい。お任せいただければと思う。

芦谷議員

情報によれば、10万円の給付金は市町村で補正予算にしなければならぬ。それは即決で、1日でやっても良いと思うが、問題は10万円を給付する準備。これはすぐにできるので、執行部にしっかりとやってもらいたい。

もう1つ言えば、例えば県大生で、住民票を浜田市に置いてない場合がある。あるいは技能実習生といったように、浜田市に登録がない人もいるので、その辺はいち早く担当課をして住民登録なりを進めないと、いざ本番になった時に支給要件に当てはまらないのが出てくる。

古森局長

それは3月27日時点で住民票のあるところという前提なので、実際には違う所に移っていても親元には届く。

澁谷議員

権利がなくなるわけではない。

芦谷議員

言いたいのは、なるべく10万円というのは浜田に来るようにしたい。どこでも良いのではなく、なるべく浜田で給付を受けてもらいたいという考えを持ってほしい。

あとは、申請の仕方が分からないとか、行かなかったりすることがある。そういった方へも、行政サービスの中でカバーしていけばどうかということである。

川神議長

今のお話はごもつともだが、基本的には第2弾というか、次の段階になると思う。まずは準備して、国から補助が出た際はいつでも、困惑なしに自治体が作業に向かえる体制を取っていただくよう、強く要望するし、そこで、どうやってスピーディにそれができるかを含め、執行部と我々議員とで話をしていきたいと思っている。

澁谷議員

今、一応意見を言わせていただいたので。これは政策提言とは違うので、何か月も議論するものではなく、議長も言われるようにスピーディに申入れすることが大事だと思うので、あとの文言については基本的には議長団に一任したい。

専決や臨時会議を開くといった、その内容は、法定受託事務的な内容であれば、ほとんど専決で良いだろうし、予算が発生することに対しては臨時会議を開くことに繋がるだろうし。まあそれは、議長団と議運の正副委員長あたりで打合せしてもらって進めていただくことが、今の状況では必要なのかなという気がする。

実際に皆、困っているので、執行部の案を議会が否定することは考えにくいように思う。その中に議会側の意見を汲み入れてもらう。

本来ならば執行部にも市民の声を聞いてもらわないといけないのだが、実際は議員の方が市民の声をつかんでいることの方が多い気がする。執行部側が市民の声をきちんと収集できていれば、政策に反映して頂けるだろうし。どのくらいの財源規模を執行部が考えているかは、僕らにまだ情報がないので何とも言えないが、スピーディーに申入れして頂きたい。

古森局長

今、執行部は、新型コロナウイルスへの体制をどう取るかについて、昼から会議をした。今日少し話があったのは、各部から一人程度出して、対応できる窓口や、お金の支給関係に取り組むスタンスで調整すること。体制はそれなりにされると思われる。予算は、専決なのか臨時会議なのかは、また調整することになるかと思う。

議員が聞かれた市民の声は、毎回こうやって会議を開くのはなかなか現実的ではないと思うので、情報があれば、事務局なり議長団に報告願ひ、それをセレクトしながら市の本部会議の際に報告していく形を取るのが、現実的なのかなという気もしている。

岡本議員

今、議員がいろいろな形で地域から相談を受けたり、話を聞いている。それを担当課に伝えると、担当課はまた仕事が増える。それは避けてやらねばならない。例えばこういう会議を開くのか、局長が言われるようにそこで受けて頂き、実態を把握した中で。会議があるから発言すると

いうのではなく、議員側が上げてきた市民の声はスピーディーに伝えてほしいと思っている。そうしないと、それに伴ういろいろな対応は早くやるべきだったりするので。

事務局長が提案されたような内容は、私も是非やってほしい。そうしないと議員各々が担当課へ行ったらパニックになると思うので。

芦谷議員

今に関連して、手間にはなるが、ぜひとも議会事務局で、議員の意見を聞いてもらって、セレクトしてもらって、執行部に言ってほしい。場合によってはホームページにQ&Aを作ってもらって、一般的に市民が疑問に思っている内容を出してほしい。

もう1つ、職員も各地域におられるので、ぜひとも職員の生活実態などを吸い上げ、市長もいろいろな実態を踏まえて、市民の声、地域の実情を踏まえて、いろいろなことを考えてもらうということをしてもらいたい。

できればこういった会議はせずに、メール環境か何かでやっていき、これは出したほうが良いというものはQ&Aなどで議員や市民に返す仕組みをやってもらったほうが良いと思います。

皆がそれぞれに同じことを聞いても仕方ないので、同じ内容ならそれを見れば分かるようにしなければと思う。

川神議長
岡本議員

その他あるか。

議員側から事務局へ言ったときに、例えば出た状態で良いから中を覗くことができるようにしてもらって、こういう意見があらでも出ているというのが見えるようにしてもらえば。同じことを言っても仕方ないので。他の議員から既出の意見であれば、あえて強く言う必要もないので、それがタブレットで見えるようにしてもらえないかと思います。

川神議長

議員からの様々な情報の一元化なら、仮にイメージすると、どこかのボックスを作って、来た情報をどんどん入れて共有するなどがある。どのようにそれをすれば議員が参照しやすく、こちらでも整理しやすいか。どう作るかはこれから考える。

岡本議員

議会だけでなく執行部も見られるようにしてもらって。あるシングルマザーが、自分が新型コロナウイルスに感染したどうしたら良いか、市に相談したらしい。そうしたら浜田市は、保健所に聞いてくれと回された。保健所はその疑問には答えられず、彼女は不安になって私に電話してきた。彼女が何を言いたいかという、シングルで子供2人抱えてやっているが、もし私が病気になった時に子供はどうしていただけるのかを相談に行ったという。でも答えようがない。私は知人だったので、「心配するな、何とかするから」と答えた。

そういう安心感を持てる対応を執行部もみならしてもらいたい。たらいまわしなどにすると市民は余計に不安になる。議会に寄せられた市民の声を、執行部も見られるようにすることが必要だと思う。

川神議長
岡本議員
川神議長
三浦議員

それは今この場で決められない。

検討してもらえば良い。

検討はする。

それに関連するが、各議員がそれぞれ持っている情報を共有することが目的であれば、クラウド上に情報を皆が上げるだけではなくて、例え

ば週に1回は議員皆がオンライン会議をする。

その際に、誰がこういったというのを共有する場を持ち、それを録画しておいて必要などころだけ見れば、もっとリアルタイムの情報共有ができるのではないかと。情報共有は必要なことだと思うので、そのやり方を事務局にも手間ができるだけかからないよう、どういう方法でできるかも一緒に検討すると良いのではないかと。思う。

川神議長

その方法に関しては、先ほど言ったように早急に検討していきたいと思う。

2. その他

川神議長

それ以外にあるか。

(「なし」という声あり)

事務局からは何かあるか。

古森局長

いや。

川神議長

早急に検討を必要とする項目もあるが、まずはこの市長に対する申入れを、皆の意見を最大限考慮しながら、再度精査して市長に申入れしていきたいと思う。よろしいか。

澁谷議員

はい。今週中にお願いしたい。

川神議長

もちろんである。スピード感を持って。この支援本部も全員協議会から2、3日で立ち上げたが、やはりスピード感を持って進めたいと思う。ただ、スピードは諸刃の剣なので、十分な議論ができないようなことが起こるかもしれないが、それはそれで修正しながら進めたい。

皆のご協力をよろしく願います。

では、以上で会議を終了する。

[14 時 23 分 閉議]